

実施報告書

HT26174

【プログラム名】補助犬と共にリハビリお助け隊
～障害適応の作業療法プログラム研究～



開催日	平成26年8月2日(土) 平成26年8月3日(日)
実施機関 (実施場所)	8月2日: 中部盲導犬協会 (講堂) 8月3日: 愛知医療学院短期大学 (講堂)
実施代表者 (所属・職名)	原 和子 (リハビリテーション科・教授)
受講生	8/2: 高校生 104名 8/3: 中学生 23名
関連 URL	http://www.yuai.ac.jp/

【実施内容】

* プログラムを留意、工夫した点

今回は昨年度の経験を踏まえ、日本聴導犬協会(聴導犬、介助犬の講義と実技)及び中部盲導犬協会等関係団体との連携をより緻密にとることができた。予想外であったのは当事業申請後に愛知県高等学校文化連盟ボランティア専門部より、参加者が約100名とのことで、急きょ中学生のプログラムとは別立てとし、会場もより広い中部盲導犬協会の大ホールをお借りした。

プログラム「補助犬と共にリハビリお助け隊～障害適応の作業療法」は概ね昨年と同様、PBL(ProblemBased Learning: 問題解決型学習)チュートリアル形式で進めた。一般のPBLでは、小グループごとに事例提示、課題確認、論点と仮説検証、中間発表、自己学習、グループ討議、最終発表という段階をとるが、時間の関係で、まず補助犬三種(介助犬、聴導犬、盲導犬)のデモと講義を行い、次にグループ討議、発表と続けるハイブリッドPBL方式とした。高校生の課題は、会場である中部盲導犬協会のデモセットが利用できるメリットを考え「盲導犬と暮らすためのリハビリプログラムを考える」とし、新たに事例シナリオ(別紙)を準備した。中学生は昨年と同じ脊髄損傷事例シナリオ(介助犬)を使用した。高校生プログラムでは、13に分かれた小グループごとに少なくとも1名のチュートリアルを確保するために、他専門学校作業療法士、病院の作業療法士、高文連の高校教師等の協力を得た。

事例シナリオの理解のために、高校生・中学生自身の障害体験機会を作った。昼食時にアイマスクをして食事をする経験時、隣の生徒が食卓のどこに何があるのか説明する支援役割体験をし、次に役割交代した。又、補助犬と暮らしている、日本聴導犬協会より聴覚障害者、中部盲導犬協会よりシナリオのモデルになった視覚障害者が参加した。聴覚障害者には手話通訳ボランティアの協力を得て、手話によるコミュニケーションの実際も提供できた。

* 当日のスケジュール

時間	内容
	1日目(高校生)・2日目(中学生)とも同一日程
10:00～10:30	受付(愛知医療学院短期大学 講堂集合)
10:30～11:00	開講式(あいさつ・オリエンテーション・科研費の説明)
11:00～12:00	講義「補助犬と作業療法(講師:原和子)」(途中休憩:15分)
12:00～13:00	昼食(教職員・日本聴導犬協会・中部盲導犬協会職員を交えて)
13:00～14:00	実習「介助犬・盲導犬・聴導犬の仕事(日本聴導犬協会、中部盲導犬協会)」
14:00～15:00	グループワーク(PBL:問題解決型学習による)&ティータイム 中学生テーマ「補助犬はロボットとどこが違う」 高校生テーマ「補助犬と共に行動する作業療法内容を考える」
15:00～15:20	PBL発表準備
15:20～16:00	PBL発表
16:00～16:30	修了式(アンケート記入、未来博士号授与)
16:30	終了・解散

***実施の様子**

当日のスケジュール

実施の様子

受付 10:00~

開講 10:30~



受付：グループ分け/資料配布。
開講式：科研費の話/オリエンテーション。
グループにて役割分担/自己紹介。

講義/デモ
「介助犬・聴導犬・盲導犬」 11:00~



補助犬と作業療法
補助犬(介助犬・聴導犬・盲導犬)のデモンストレーション。

昼食 12:00~



視覚障害体験ということで目隠しをしながらランチタイム。
目が見えることの大切さを感じてくれていました。

実習 13:00~



体験タイム：受講者が補助犬の役割（睡眠から起こす）他を体験しました。

グループワーク 14:00~



補助犬を連れて、各グループを回り、質問に答えました。

ティータイム 14:40~



ティータイム中もグループワークが継続していました。

発表準備 15:00~



グループの意見をまとめ中。

発表 15:20~



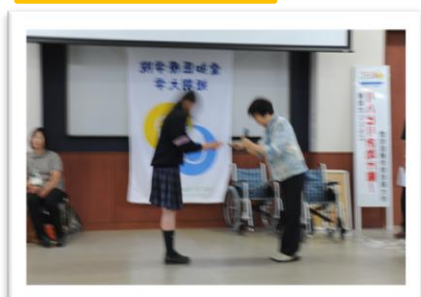
全員に聞こえるように、グループでまとめたことを発表しました。

総括 15:45~



研究代表者、チューターの他、盲導犬協会・聴導犬協会代表、各高等学校校長先生からコメントをいただきました。

未来博士号授与 16:00~16:30



未来が子ども達の希望に忠実でありますように！

記念撮



補助犬と一緒に！「はい、ポーズ」
また、会いましょう！

*** 事務局との協力体制**

教育研究推進課職員が日本学術振興会との連絡調整・提出資料の確認・修正等を行い、渉外課職員が清須市、あま市の教育委員会の後援を依頼し、近隣の中学校・高校や公共施設等を訪問し、本事業についてPRした。また管理運営課職員が委託費の管理と支出報告書の確認を行ない、開催日が1日から2日間と変更となり経費の配分に苦労したが、PRポスター、コピー用紙等の消耗品費、軽食・お茶など安価品を探し対応した。

*** 広報活動**

実施者(代表者・分担者)及び渉外課職員が清須市、あま市の教育委員会の後援を申請し近隣の中学校及び県下の高等学校を訪問し、本事業についてPRした。本事業のポスター・ちらしを作成し、訪問活動時に配布、また、市役所等公共施設に掲示を依頼した。本学ホームページにて本事業を告知し、中日新聞社やローカルTV局に本事業の情報提供により、実施告知依頼と取材依頼をする。

*** 安全配慮**

実習の安全確保のため、受講生小グループに対し1人の割合で本学教員及び日本聴導犬協会職員、中部盲導犬協会職員、愛知県作業療法士協会ボランティア等による実施分担者を配置し、受講生ひとりひとりに目が配れるように配慮し、きめ細やかな対応を行う。

受講生と実施代表者・実施分担者・実施協力者すべてがレクリエーション保険に加入した。開催中は、「救急箱」を準備した。

*** 今後の発展性、課題**

今後の発展性:「生き物」である補助犬は、福祉機器やロボット機能のモデルとなってきた経緯があり、これからも変化する世の中への個別的適応モデルを提供するものと思われる。児童、生徒達への教育的視点からは、補助犬との作業的関わりを通して、自我意識及びコミュニケーション能力が育成され、意志選択できる自立した社会人となるための支援となることが期待される。

作業療法では、作業への「意志」が動作、行為、生活への発動となるとされ(人間作業モデル理論)、それ無しには補助犬との関わりの中で「犬との信頼関係」と「犬に命令する、操作する」ためのコマンドができない。「意志」の要素には「興味」「価値」「個人的原因帰属」があり、それらがしっかりしていないと作業の「選択ができない」「やる気がない」等、作業遂行障害の原因となる。心身に障害を持つリハビリの当事者でなくても、「ひきこもり」「不登校」「ニート」など、昨今の社会問題となっている作業遂行障害と言える状況を引き起こす。補助犬には目的動作や生活、仕事の補助を明確に伝える必要があるため、自分の意志と作業選択を決断しなければならない。一般に児童、生徒にとって、犬には対人間よりも安心して自分の意志を伝えられるため、コミュニケーションの模擬学習機会となり得る。

今後の課題:以下の課題は高校生、中学生より質問が出され、質疑応答の結果、補助犬に直接たずさわる仕事(補助犬)以外でも、補助犬の普及に関わることができると理解を共有できた。これは課題であると同時に、今後の発展性につながる。

1. 作業療法士は障害や疾病があっても「したいことがある」「することがある」「期待されている」人であることへの支援をするという意味で、補助犬をリハビリテーション医療の中に位置づける。特に高齢化社会では耳が遠くなった方のための聴導犬、見えにくくなった方のための盲導犬、体力が衰えて引きこもりがちになった方のための介助犬の活躍が期待される。そのような意義がまだまだ知られていないために日本での普及は欧米に比べて著しく遅れている。完全に聞こえなくなってから、全盲になってから、寝たきりになってからでは遅い。しかし、比較的障害が軽いうちは訓練を受ける機会や認定を受ける資格がない。
2. 補助犬の訓練を受けられる年齢は日本では18歳以上、また高齢者には認定時、様々な制限が課せられている。
3. 誰もが広く補助犬をもつことができるためには、医療、福祉の法律改正が求められるため行政、立法、司法の仕事も重要になる。
4. ロボットに代表される福祉機器や義肢装具の開発において、そのモデルは生きている補助犬とユーザーである障害者の共同関係となる。ロボットと補助犬は対立関係にあるのではなく相互共生関係にあるとよい。工学に進む若者へのメッセージとなる。

【実施分担者】

加藤 真夕美	リハビリテーション学科・講師
山下 英美	リハビリテーション学科・講師
横山 剛	リハビリテーション学科・助教
堀部 恭代	リハビリテーション学科・助教
五十嵐 剛	リハビリテーション学科・助教

【実施協力者】 17 名

【事務担当者】

小川 由美子	副学長・法人本部本部長
柴田 篤	法人本部
田原 靖子	教育研究推進課・課長
石原 香織	教育研究推進課
飯田 満希子	キャリア支援課・課長
東郷 憲二郎	渉外課・課長
木村 元則	渉外課